

食品分野におけるプラスチック容器包装資源循環タスクフォース（第4回）
議事要旨

1. 日時・場所：令和8年1月19日(月)9：45～12：00
2. 農林水産省会議室（ハイブリッド形式）
3. 出席者：別紙のとおり（出席者名簿）
4. 議題：（1）食品業界の取組等の紹介
 - ・ 水平リサイクルに向けた取り組みと課題について
（全国マヨネーズ・ドレッシング類協会）
 - ・ 菓子業界のプラスチック問題への取組の現状と今後の取組方向について
（全日本菓子協会）
 - ・ 日清食品グループ×プラスチック（（一社）日本即席食品工業協会）
 - ・ プラスチックへの取り組みのご紹介（日本ハム・ソーセージ工業協同組合）
 - ・ 「食品分野におけるプラスチック容器包装資源循環タスクフォース」御説明資料（（一社）日本パン工業会）
 - ・ プラスチック容器包装資源循環タスクフォース説明資料
（（一社）日本冷凍食品協会）（2）食品容器包装リサイクルの状況について
 - ・ プラスチックのリサイクルについて（日本プラスチック工業連盟）
 - ・ エフピコ方式のリサイクルとサステナビリティ戦略
（株式会社エフピコ サステナビリティ推進室 チーフマネージャー 若林様）（3）意見交換

5. 主な発言内容等：

（1）食品業界の取組等の紹介

各業界団体から資料に基づき説明。

<意見交換>

○ 食品各業界の取組

- 本日紹介された食品各業界の取組の現状と課題を事務局においてとりまとめ、資料として提供してもらえるとありがたい。

○ 食品容器包装のスペック

- 再生プラの利用も含め、食品メーカーから包材メーカーに対し、求めるスペックの情報提供はどの程度行われているか。
 - 製品・素材によって求めるスペックが異なる。食品メーカーが厚みや寸法、機能性などを伝え、具体的なスペックは包材メーカーが提案する。なお、再生プラについては、現時点では対応が難しいと当方が判断していることから投げかけたことはない。

- 指定 PET ボトルでは、汚染物質等の除去について食品メーカーとリサイクラーが協力して試験を実施し、その結果を以て厚生労働省に認められた。上下流が連携して取り組むことが重要。

○ PS のケミカルリサイクル

- PS のケミカルリサイクルの課題は何か。
 - 資料 4 の p.13 について、市場回収した PS のケミリサ適性が「×」と付いているのは PS 純度の問題。一般廃棄物由来のものだと PS 以外のプラ素材が混在し、再生 PS の純度が落ちるが、PS 単体のものを集めれば技術的には問題ない。

○ ドレッシングなど油付き PET ボトルのマテリアルリサイクル

- 油付き PET ボトルの洗浄方法はアルカリ洗浄と水での洗浄に分かれる。アルカリ洗浄であれば飲料 PET 用に必要な条件を満たす可能性がある。他方、水洗浄している事業者へ渡る可能性もあるため、全体設計には難しさが残る。
 - アルカリ洗浄は、油成分のグリセリン脂肪酸エステルがけん化されることにより界面活性剤ができるので有効。

○ ケミカルリサイクル由来の再生プラを利用した実証

- 今回の取組紹介では、回収実証は行われているが、ケミカルリサイクル由来の再生プラを利用した製品の販売実証は行われているか。
 - 行われていない。

(2) 食品容器包装リサイクルの状況について

- ・プラスチックのリサイクルについて
 - 日本プラスチック工業連盟から資料説明。
- ・エフピコ方式のリサイクルとサステナビリティ戦略
 - 株式会社エフピコから資料説明。

<意見交換>

○ エフピコの取組

- トレーの再生プラのコストはバージン材と比べてどの程度か。
 - 現在、半分以上が再生プラを利用したエコ製品であり、バージン並の価格となっている。
- トレーの回収に協力した消費者へのインセンティブ措置はないのか。
 - 取組当初は設けていたが、回収店舗が広がるにつれ、来店動機にならないという理由でポイントはなくなった。

(以上)